

9 赤とんぼ

※題字／森川芳聲



歌碑／古賀市 ほたる



歌碑／古賀市 赤とんぼ

歌碑のこころ

ほたる
ほう ほたる こい
あつちのみずは にがいぞ
こちのみずは あまいぞ
ほう ほたる こい



古賀市 舞の里あいさつ通り

※詳しい解説は12頁に掲載しています

もくじ

- 2 巻頭言「志明館」開校に向けて…… 山口 秀範
- 3 あれこれ思ふこと⑦…………… 古川 忠
- 4 「偉人レポート」…………… 吉川 理夫
- 6 教師生活を振り返って…………… 矢永 誠二
- 7 唱歌／童謡
―先人からの贈りもの③…………… 森田 仁士
- 8 天地いっぱい③…………… 森川 徹
- 9 伊達政宗「馬上少年過ぐ」をめぐって⑦… 廣木 寧
- 10 TERA KOYA ふおとれぼーと
- 11 “あちこちde寺子屋”のご案内
- 12 歌碑のこころ(19) 編集余録 余録の余録

「志明館」開校に向けて

代表世話役 山口 秀範

入札を制す

前号で「正念場」とお伝えした「志明館」の開校候補地が決まりました。去る八月十二日に北九州市から、小倉北区の小学校跡地利活用事業につき入札結果の公表あり、見事「最優秀提案者」に選定されたのです。今後は福岡県への申請手続きを経て、令和六年（二〇二四）四月開校を目ざすことになります。

本事業の第一歩は、平成二十年（二〇〇八）五月に石村萬盛堂本社の会議室で開催された「日本一の小学校を作る第一回勉強会」に遡ります。当初は、福岡市内で統廃合により空いた小学校跡地への開校を想定していました。しかし、いずれも街中の一等地に位置し廉価での長期賃借はとも望めず、具体化には至りませんでした。建学の理念や独自科目など議論に花を咲かせましたが、翌年からリーマンショックに見舞われ、勉強会も休会の憂き目に遭いました。

紆余曲折

活動を再開して暫くの頃、当時の宗像市長から同市郊外の土地を用意するのと、学校誘致のお話がありました。それを契機に百名近い方々の「発起人会」が立ち上がり、平成二十七年一月には市と

の間で「基本協定書」締結まで進みました。

しかし新校舎建設の青写真が出来、募金活動に注力し始めた矢先、候補地の造成費負担など想定外の懸念が次々と顕在化して、遂に断念を余儀なくされました。

続いて検討した幾つかの案件の中で有力視されたのは、福岡市東区の志賀島で、過疎化の進む地元公立小学校を統廃合して、その跡地に「志明館」開校をという画期的な話でした。神話にも登場する安曇族、万葉歌碑、金印発見等歴史の宝庫であり、海と山に恵まれた自然環境も我々が目ざす教育を後押しする条件に溢れていました。

惜しむらくは島内の意見集約が大変難しく、早期開校の糸口を見出せぬまま諦めざるを得ませんでした。将来「姉妹校・志賀島分校」の開設が再浮上する可能性を捨ててはおりません。

半世紀越しの宿願

長期に及ぶ海外勤務から帰任した平成六年春の一夕、恩師小柳陽太郎先生をお訪ねしご馳走になりながら四方山話に夜を更かしていた時です。突然先生が「山口が作ると言っていた学校は未だ出来そうにないなあ」とおっしゃったのです。酔眼朦朧の中で昔日の記憶をたどり

「大学紛争に翻弄される多くの青年は日本の真の歴史を知らない。子供のうちにもっと大切な心を育くむ学校が必要だ」とある時期に力説していた自らが甦りました。ああ先生は、半ば思いつきに過ぎない一教え子の夢想を四半世紀後まで覚えておられ、戦後教育の混迷が加速化する中で淡い期待もかけ続けて頂いたのかと、改めて師の恩に頭を垂れたのです。

こうして我が来し方を顧みると、日本の子供たちを育てる学校開設構想の萌芽は五十年以上前に兆していたことに我ながら驚くばかりです。小柳先生を始め様々なご縁の積み重ねで、その実現が現実となりつつあることに肅然と襟を正される思いです。

皇居勤勞奉仕の機縁

前述の十三年前の勉強会以降、博多学園理事長の八尋太郎氏とは苦楽を共にしつつ走りづめで来ました。とりわけ忘れられない瞬間を一つご紹介します。

寺子屋モデルは創業以来毎年、支援者友人来賓を招いて「事業報告会」を催しました。平成二十五年四月「第八回報告会」会場で、開会直前に近寄って来た八尋氏は「今日の挨拶で、小中一貫校を作りますと明言してください」と私の覚悟を迫りました。その迫力に押されて「これまで毎年学校作りの願望を述べてきたが、今後はその実現に向け全力を尽くす」と明言したことを覚えています。

先日入札結果を受けて二人でささやか

に祝杯を挙げたときに八年前の真相が明らかになりました。秘密は「皇居勤勞奉仕」にあったのです。

福岡中経協で主要行事となっている勤勞奉仕事業の第一回は平成二十四年秋で、団長を務めた私は両陛下の御会釈御下問を賜る稀有なる機会に恵まれましたが、八尋氏もこの四日間を通じて日本人の自覚と次代の子供たちを教育する使命を満身で体感したようです。「日本の国柄が理屈抜きに実感され、自分のなすべきことが定まった」と述懐しています。

さて、これからの準備作業で最重要課題は、一騎当千の教師を集結し切磋琢磨し合うチームに組成することです。加えて寄付金のお願いもそれに劣らず力を入れて参ります。

入札結果発表を見て

「最優秀提案者」の決まるその朝にパソコン開く確信持ちて内容も価格も一位堂々の評価を得たり我らが事業は小学校興さむと友らに呼びかけて企て初めしゆ早や十三年ぞ二度三度思ひ叶はずふりだしに戻りし日のさま今は懐かし

再出發余儀なくされし逆境もすべてこの日の糧とぞなれる開校は二年半後と決すれば手持ちの時の少なきを知る次々と祝福激励もたらされ使命重きをひしとかみしむ